



縄文文化交流センターに実物投影機を寄贈（H26.2.10）



恩師から引き継いで

夕陽会函館市支部 副支部長 風間和夫
(昭和五十七年卒)

『朝雲高き蝦夷富士や夕潮深き内浦湾
大舟川の精を汲み 若人我等学ばん』

現任教校の校歌です。校舎からは正に、遠くに蝦夷富士、そして日ごとに姿を変える内浦湾を一望することができます。

赴任して半年経った頃、中学校時代の恩師が、遠いところわざわざ訪ねて来てくださいました。直接授業で教えていただくことはなかつた恩師ですが、部活の顧問として強く心に残つている先生でした。そして私が教師生活をスタートさせたから、なぜか恩師と不思議な縁が続きます。（と勝手に思つていますが）

実は恩師も三十年前、私の現任教校長でした。当時の私は、新任教師として隣の中学校に勤務しており、恩師と中学校卒業以来の再会を果たしていました。

それからずつと後になつた七年前。長万部に赴任したある日、隣の学校で恩師の若き校長姿の写真を発見し、驚きました。さらに驚いたことに、次の函館での赴任先是、恩師の退職前最後の勤務校だったのです。

そして再び、恩師と同じ学校に勤務することになり、私の学校経営を心配して訪ねていらつしやつたのです。恩師は校長室で、三十年前の生徒のことを懐かしくお話しされました。その中には今の生徒の保護者も多數います。

さて、校歌の冒頭にあります、現任教校の生徒会誌は『朝雲』といいます。恩

師が三十年前の『朝雲』の巻頭言で、次のこととを生徒に語つていました。

「前段略」仏教に『無財の七施』といふ教えがあります。その第一は、心から人に親切にし、世話をすることで、捨身施といいます。第二は、人の喜びや悲しみを自分のものとして、ともに喜び悲しむことで、心慮施といいます。第三は、人に優しい笑顔で接することで、和顔施といいます。第四は、人を慈しみ、情け深いまなざしで見ることで、慈眼施といいます。第五は、人に愛情のこもつた優しい言葉で話すことで、愛語施、第六は人をゆつたりとした気持ちにさせることで、房舍施といいます。即ち、一円のお金を使わないでも、沢山の人に喜ばれるプレゼントを、差し上げることができるというわけです。（後段略）

恩師の生徒に向ける優しさが目に浮かびます。つい最近、恩師にお会いする機会がありました。その席で「先生が生徒に語つた言葉を拝借してもいいですか」とお聞きしたら、「あなたの頼みだからしようがないな」：何時になつても、つい甘えてしまいます。夕陽（せきよう）の大先輩でもある師にどこかで恩返しを考える今日この頃もあります。



夕陽という世代を超えた絆

夕陽会副幹事長（組織部長）福井博志
(昭和六十年卒)

現在、附属函館幼稚園に勤務し、微力ですが副幹事長として夕陽会の仕事をさせていただいております。平成十二年に附属中へ着任し、それと同時に組織部の仕事を勉強させていただきました。

中学校に着任当時は、同窓会業務に特別な思いもなく、事務的に淡々と与えられた仕事をしていました。しかし、組織部の大きな仕事である会員の動向把握をしているうちに、人の繋がりの重さとそれと一緒に同窓会の仕事の大切さを学ばさせていただきました。

本部役員の仕事として、日高や網走、根室での会議に出席した時のことです。

ここ函館の地で大学生活を送り、いわば「同じ釜の飯を食つた仲間」が大先輩から若者まで集います。話題はやはり大学生生活になり、大いに盛り上がります。私は本部役員として、大学や学生の現況を報告しますが、函館やその近辺の様子を紹介すると更に盛り上がります。世代の違いがありますから話題についていけるかどうか危惧していましたが、八幡町の大学を中心に話をしました。

紅葉軒の父さん・母さんの話。市電にガス会社まわりの路線があつた事。西武デパートが撤退し、パボツツとなり、さらにはテキサスという名前になつた事。もう少し距離を広げると、松風町電停側にあつた精養軒や森文化堂が今は無い事。五稜郭ダイエーは閉鎖になつたが以前は

「ホリタ」という名前だった事。和光デパートが生まれ変わる事。さらには、函館市の中学校に統合の動きがあり、○中は校舎が古いので新築の噂等々。大先輩の中にはこれらの話を聞き、涙を浮かべながら大学時代を懐かしみ、それだけではなく若輩の私に色々と人生訓や教育観を教示して下さった方々もいらっしゃいました。若い会員はサークル関係や居酒屋の存在などで盛り上がり、身の上相談を受けたりなど、日常の職場と違つた貴重な体験をさせていただきました。

夕陽という絆に世代を超えた確かな想いを感じた場面でした。

個人的な事で恐縮ですが、私の叔父は夕陽会員でした。校長として退職し何年もしないうちに他界されました。私が教員になることを一倍喜んでくれ、私が新卒の頃には「人との繋がりは財産だぞ」と、事ある毎に話をしてくれました。教職員数が増えるとともに自分の非力さを痛感し、迷い、そして悩みが生まれます。そんな時、叔父が生きていてくれたら、どんなアドバイスをしてくれただろうといつも思います。叔父の教えのように諸先輩からいたいた様々なご助言は財産ですし、若い会員からは忘れかけたエネルギーをもらっている毎日です。

夕陽会があつてこそ今の自分です。

受賞者ご芳名一覧 (敬称略・順不同)



瑞宝 双光 章	奥谷 雅雄 (昭和20年卒)
瑞宝 双光 章	桑名 嶽 (昭和20年卒)
瑞宝 双光 章	名東 陽吉 (昭和22年卒)
文部科学大臣優秀教職員表彰	目黒 範和 (平成9年卒)
北海道教育功績者表彰	田邊 信之 (昭和51年卒)
函館市文化賞	高橋 健樹 (昭和37年卒)
函館市体育協会スポーツ功労賞	近野 功 (昭和33年卒)
函館市文化団体協議会白鳳章	鈴木 秀明 (昭和46年卒)

函館市立学校教職員表彰

阿部 憲司 (昭和51年卒)	今 福 一 (昭和50年卒)
加藤 正男 (昭和51年卒)	野呂 孝俊 (昭和50年卒)
木村 元 (昭和55年卒)	溝口 幸司 (昭和50年卒)
小松 一保 (昭和50年卒)	横岸澤 英二 (昭和51年卒)

受賞おめでとうございます



只々、感謝あるのみ

桑名 嶽

(昭和二十年卒)

平成二十五年六月一日発令の叙勲「瑞宝双光章」受賞
挙手の栄に浴し、誠に身に余る光榮と感激いたしております。

これもひとえに、皆様の長年に亘る心温かきご支援・
ご教導の賜と深く感謝申し上げます。

顧みれば、訓導二校・教諭六校・教頭二校・校長三校
の計十三校の教職歴四十年余に亘り、心の軌跡ともい
える一つひとつに強い哀歎と惜春の情を覚える。

特に、病氣休職の鈴木正敏校長の後を請け、五十八年
十二月赴任した北日吉小学校が最終勤務校となり、校長
としての力量の総てをかたむけた二年四ヶ月であった。
1 昭和五十九年九月に挙行した、開校十周年記念式典・
祝賀会で、その記念誌に『新しき酒は、新しき革袋に
盛れ』との決意を述べ、また、二十四学級約千名弱の
児童が、学年ごとに趣向をこらして繰り出した山車行
列の数々に、大歓声が校舎にこだました様は、いまだ
に忘れない。

2 五十九・六十年の二カ年、市教委の研究指定校とな
り、「確かな力を身につけ、自ら追求する子どもを育
てる学習指導」を主題として「主体的で変化に対応で
きる人間」の育成を目指して、全教職員の共通理解の
もと、研究推進体制を組織し、一意専心努力を重ねま
した。当時の全校集会「北日吉の生い立ち」や学習指
導を参観された百余名の先生方からは「実にすばらし
い実践研究だ」と賞賛のお言葉を頂きました。

これらは、北日吉小学校で切磋琢磨を惜しまなかつた
有為な人材と、素質豊かな子ども達 加えて底支えの労
を惜しまなかつたPTA各位に恵まれた故と、今日でも
感謝の念を禁じえません。

今、米寿を超えた『どっこいしょ』の毎日を過ごして
いるが、「人生は、出会いの年輪、教えられ、育てられ、
支えられ、只々感謝の他なし」と考えている。



感 謝

名 東 陽 吉

(昭和二十一年卒)

このたび、高齢者叙勲の栄に浴し、多くの方々の祝意
を頂き有難く、感謝しております。

教職歴三十九年、私が師範学校を卒業した昭和二十二
年に、いわゆる新制中学校が設立され、函館市立旭中学
校に着任いたしました。

中学校の教員になりたいと思つたことは、中学校まで
の生徒は皆 同じ途を歩んできましたが、中学校を卒業
すると、それぞれ個々の途を進むことになります。その
人の人生観、個性、能力、体力、特性等を考えて決める
ことになります。そのようなことを考へて、私は、中学
生には進路指導の教育が必要だと痛感致しました。
そのような時、同じ考え方を持った同僚と話し合い、進
路指導研究会を設立しようということになりました。

その時期に北海道中学校進路指導研究会が設立されま
したので、函館市においても、函館市中学校進路指導研
究会を設立し、続いて、北海道進路指導研究会にも加入
致しました。その後、進路指導教育の研究を深める為、
進路指導の全道大会を道進研を中心として、全道各地区
で開催し、進路指導教育の充実と発展に努めました。

昭和二十七年頃でしたか、道教委で広域人事を始めら
れました。即ち、私にとっては、函館市だけでなく、広
く郡部の学校にも勤務し、幅広い教育観を持つことが目
標になりました。私は、函館市だけの勤務でしたので、
この広域人事が始まつてから、戸井町の潮光中学校、教
頭として森町の森中学校、校長として八雲町の落部中學
校に赴任し、その後、函館市の光成中学校、深堀中学校
の校長を最後に三十九年に亘る教職を終えました。

函館市だけでなく、渡島の各郡部の生活も体験出来ま
した事、今になつて、いろいろと感謝致しております。



多くの方々に支えられて

田邊 信之

(昭和五十二年卒)

この度の北海道教育功績者表彰の栄誉に際し、身に余
る光榮と感激するとともに、恐縮をしているところです。
また、函館市支部の会員の皆様からのお祝いや励ましの
言葉をいただき、心よりお礼申し上げます。

正直なところ、浅学非才な自分のような者が、このよ
うな栄えある表彰を受けるなど、全く意外なことでした。
もとより、このたびの栄誉は、これまで何かにつけ励ま
し、勇気づけてくれました多くの先輩諸氏や仲間と、教
育委員会をはじめとする関係各位のご協力、ご支援が
あつてはじめてできたことであります。皆様に深く感謝
申し上げます。

振り返ってみますと、不安と心細い気持ちで一杯で
あつた新卒時代。夕陽会長万部支会の歓迎会では、学大
卒・丑の会の皆様をはじめ、諸先輩にお世話をいただく
とともに、その後も、公私ともに親身な励ましやご指導
など、沢山の面倒をみていただき、無事教職のスタート
をきくことができました。また、その後の教職生活にお
ける基礎をも確立させていただきました。

函館市支部会員となつてからも、何ら貢献をすること
も無く過ごしてきましたが、函館市支部の事務局校の一
員として仕事を与えられた時に、自分も一人の会員とし
て、夕陽の多くの方々に支えられてることを思い
知らされました。さらに、年を重ね、学校の異動を重ね
る毎に、同窓の有り難さや、重みというものを感じるよ
うになりました。まさに、これまで支えていただきまし
た多くの方々のお力があつたからこそ、この度の受賞に
つながつたのです。

これからは、少しでも、支えて下さいました方々に恩
返しができるよう努めていくことをお約束し、お礼と感
謝の言葉いたします。誠に有難うございました。

よ ろ こ び の 言 葉



驚き、そして感謝

高橋 健樹
(昭和三十七年卒)

この度、函館市文化賞を受賞することになり、推薦し応援してくださった方々に感謝申し上げます。ただ驚いています。また、受賞に際しては夕陽会より祝電をいただき誠にありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

昭和三十七年、太田鶴堂教授からの卒業祝。「争坐位帖」を交替で長時間書きあつたことは一当時は、書の技法は盗むもので、教えることではないという時代、だつたから一忘れるとは出来ません。このことは「伝えること」の大きな意味をもつていたことに気づかせて頂いた訳です。感謝しています。

昭和三十九年、森町尾白内中学校に勤務しながら、冬休みから集中講義「揮毫書式研究」を担当する。以後、夏期冬期の年に二回を担当。昭和四十四年、函館開催の全国大学書道学会で『書の伝統性の中による呼吸の技術の一考察』を発表する機会を得た。師からの急な話であつたので、発表当日の朝までガリ切り、学生の印刷・製本の応援を得たものだつた。間にあつて皆で喜び合つたものです。

これが書道に対する姿勢—書の求める方向—を決定づけた意味が、大きかつたと回想している。

書の普遍性とは—古典の貌—書の生命力—生き方などを考えていかねばならず、指導するむずかしさをかかえ、わかりやすく単純に理論をおさえ、実技と一致することを、如何に体感させるかと、今まで來たように思う。

書道展への出品は、技術は多少まずくとも、書きたい言葉をどうおさえ、どう伝えるか、また、実感させ得るかの苦心であった。運よく大きな賞を戴きました。応援し認めてくださった人がいたからだと感謝しています。これからも「古典の貌」を書くことを通して、今まであまり光のあたつていらない「ことばの貌」を搏えて書けたらと願っています。



継続の条件

鈴木秀明
(昭和四十六年卒)

この度、赤光社美術展や新道展の活動に対しても功績が認められ函館市文化団体協議会「白鳳章」を授与し、身に余る光榮と感謝しております。

昭和四十六年四月、私は朝靄漂う道東の根室の学校に赴任しました。技術専攻の私に「君には岡工の専科をやつてもらう」との言葉が耳に飛び込んできたときから、美術の道に入り込み、絵を描くこと四十年を超えて充実した時を得ました。

しかし、寂しいことにどれだけの同士がこの道を去つて行つたことでしょう。継続のためには、どんな条件が必要なのでしょうか。

第一に結婚という問題があるでしょう。「信頼できる家庭の風土が才能の開花を助ける」そんな幻想は抱かなの方が多いのです。彼の両親や妻そして子どもが一家の世帯主が危険な趣味を持つことに心配もせずに見ていることはめったにありません。作品の送料 モデル代、画材、分担金、運賃、ホテル代……それらによつて給料の多くは吹き飛んでしまうからです。家族を思う優しさは残酷にも芸術の前にはひ弱さを示すことになります。第二に健康です。制作には肉体的、精神的に激しい戦いがあり強い集中力は自分を根源的な世界へと誘ってくれます。強い意志と健康な肉体がそれを可能にします。(夭折の画家をねらうのなら別ですが……) 第三に絶え間ない探究心が必要で、培われた広い教養はその人に固有のものであり心の反映である作品は、知性の高さのものでしかありません。第四の……これがもつとも大事な要素になるでしょうが、「聖なる情熱」を持つこと。絵を描くことを禁じられたら、病気になるだろうか。本当に絵を描かないではいられないのか、この問いに対しても強く単純に「yes」ということが言えるだろうか。

こうして継続することの難しさを改めて認識してみると、この人生を支えてくれた人々に感謝しないではいられません。今回の受賞を一つの節目として、今後も誠心誠意精進の道を歩んでいくことをお誓いいたします。



ありがとうございました

阿部憲司
(昭和五十二年卒)

この度、函館市立学校教職員表彰受賞の栄を賜りました。身に余る光榮に、これまで支えていただいた多くの皆様へ心より感謝申し上げます。

昭和五十二年春。初めてガリ版に向かう私に「字が下手でもガリ版は上手くなれるよ」と励まし、初步的な技術を伝授してくれた先輩。しかし、私の意に反してズレた時を得ました。技術専攻の私に「君には岡工の専科をやつてもらう」との言葉が耳に飛び込んできたときから、美術の道に入り込み、絵を描くこと四十年を超えて充実した時を得ました。

やらでしばし呆然。初任となつた北海道教育大学附属養護学校での忘れられない第一歩でした。その後も寄つてたかつて?毎日新しいことを叩き込んでもらいました。勿論、夕飯をご馳走になつたり、お酒を教えられたりも。こんな新米教師でも、子どもたちは毎朝笑顔で挨拶し、素直に向かつてきてくれました。楽しいは「楽しい」嫌だは「いや」、やりたいは「もう一回」等々、ありのままの子どもたちの姿が「自分を映す鏡」ということを、実感をもつて感じさせられる毎日でした。実際に子どもたちの姿から教えられたことは計り知れませんでした。今、振り返つてもこの初任校での経験が、教員生活の原点になつていて改めて思い起こしています。

お陰様で、その後も生徒指導に課題を持つた学校や統合・新設校のスタート、研究指定校等々様々なステージでの三十六年間を楽しませていただきました。夕陽会の諸先輩には、赴任地それぞれでたくさんのご教示をいただき、併せて、同僚・後輩の皆様にも教育活動全般でどれほど助けていただきたいことでしょう。これらたくさんの支えあっての今日の受賞と心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



ただただ感謝の念

小 松 一 保

(昭和五十年卒)

このたび、函館市立学校教職員表彰受賞の栄に浴し、身に余る光栄に存じますとともに、心からお礼申し上げます。振り返りますと、函館市内での勤務は、教諭時代に三校、管理職として三校の計六校で、二十三年間お世話になりました。教諭時代には、多くの先輩、同僚に教員としてのイロハを教えていただきました。また、管理職時には、先輩の校長先生方に御相談を持ちかけますと、たくさんのご指導を賜り、お陰をもちまして、昨年三月に大過なく退職を迎えることができました。

教育はいつの時代にあっても課題山積ではあります、この三十八年間に幾度となく教育の変革期を体験し、その都度私たち一人一人に意識改革が求められ続けてきました。しかし、どんなときにも、夕陽会の諸先輩あるいは同僚はいつも私の力強い支援者として、導いてくださいました。「人は、尊敬すべき人の後ろ姿を手本として、人生を歩むものである」といわれますが、私も教員、あるいは校長として追い求めてまいりました先生方がいらっしゃいます。その方々に肩を並べることは到底叶いませんでしたが、これからも夕陽会の諸先輩に近づけるよう研鑽を積んでまいりたいと考えております。今後ともご指導の程宜しくお願ひ申し上げます。



感謝を込めて

今 福 一

(昭和五十年卒)

この度は、栄えある函館市立学校教職員表彰を受賞し、感極まる思いでいっぱいです。夕陽会の諸先輩や同僚の皆様には常日頃より数多くのご指導やお世話を頂いてきましたことに厚く感謝いたす次第です。はじめに私の三十八年間の教職員生活を簡単に振り返ってみます。

昭和五十年に教員に採用され、奥尻町立青苗小学校藻内分校に赴任しました。函館分校の新卒がその年、町内の稻穂小、奥尻中、青苗小と四人一緒に、心強かつたです。島には、多くの若い教員がいて、余暇に教職員の野球チームを立ち上げて若さを發揮し交流し合いました。

その後、知内町、大野町、上磯町、八雲町と赴任する中で夕陽会の諸先輩にお世話になり多くのご示唆をいたしました。特にそれぞれの地域の夕陽会の送別会では、諸先輩、同僚と本当に多くの夕陽会員が集まり賑やかに歓談し交流したことを思い出します。そして、最後に激励のお言葉をたくさん賜り、私自身、次の学校に意気揚々と赴任して行くことができたのではないかと思います。

さて、函館市の学校には教頭として平成十七年に当時函館市と合併間もない戸井地区の日新小学校に赴任したのが最初です。開校百三十周年の事業の準備や函館市子どもの生活を守る会のブロックの事務局の仕事をしていました。また、平成二十年には大船小学校校長に採用となり、教職員と一緒に開校百三十周年事業や函館市複式教育研究会の活動や市P連広報部の活動をしました。平成二十三年には万年橋小学校校長として赴任し、多くの教職員に支えられ函館市小学校生活指導研究協議会会长の職も全うするとともに、退職までの二年間を充実して過ごすことができました。

最後に、夕陽会のご発展と会員皆様のご健康とさらなるご活躍を祈念し、お礼の言葉といたします。誠にありがとうございました。



皆様に感謝

野 呂 孝 俊

(昭和五十年卒)

この度、函館市立学校教職員表彰受賞の栄を賜り、身に余る光栄に存じます。これも諸先輩や同僚・後輩はもとより保護者や子どもたち、地域の方々、教育関係者等々多くの皆様方のお力添えやご厚情によるものであり、心より深くお礼を申し上げます。

教員生活のスタートは、八雲町立山崎中学校で、小中併置校でした。その後退職までの八校三十八年余の教職生活を全うできたのは、大学時代の教育実習を含め、多くの子どもたちとの出会いや多くの皆様の励ましがあってこそと感謝の気持ちでいっぱいです。

卒業後あるサークルの集まりで、時々大学に行くことはありましたが、夕陽会について特別な思いや意識はありませんでした。しかし、教頭になって、日高に赴任した時、遠く離れたこの地にも夕陽会の多くの先輩や後輩がいて、励ましの言葉をいただいたり、情報等の交流ができ、夕陽会の歴史と伝統のすばらしさ、そして会員の団結力の力強さを感じました。

私は同窓会の会員名簿作成に携わっていますが、個人情報保護法に伴い、なかなか情報収集がしづらくなっています。しかし、夕陽会の同窓生としての自覚を胸に、お世話になつた皆様のために、少しでもお役に立てようできる限りの努力をしてまいりたいと考えております。

表彰式には出席できませんでしたが、ご丁寧な対応をいただき、この紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。これまで、自分を育ててくださいました多くの皆様に、感謝の気持ちがいっぱいあります。

会員皆様のご健勝・ご活躍と夕陽会のますますの発展を祈念し、お礼の言葉といたします。



感謝を込めて

溝口幸司

(昭和五十年卒)

この度、函館市立学校教職員表彰受賞の栄を賜りました。これも多くの皆様方のお力添えやご厚情があつたればこそと、心よりお礼と感謝を申し上げます。

母校を卒業して以来、教員生活の折節で夕陽会の方々の励まされ、温かい手を差し伸べていただきたことが今も思い出されます。

その中でも、平成五年に釧路管内に異動になつたときは、大きな力を与えていただきました。見知らぬ土地で新しい経験をすることとなり心細かつたのですが、釧路市内や管内には同窓の方が多数活躍されていました。かつて、釧路方面から函館(師範学校、学芸大学、教育大学函館分校)に出て来て学び、釧路に戻つて教員になるというパターンがあつたようです。支部の会員数は百人以上であつたと記憶しています。毎年、四月最終土曜日に開催される総会・懇親会にはOBの先輩諸氏も参加されており、私はその方々から「いやあ、久しぶりに函館弁を聞いたよ。」などと言われていました。函館から遠く離れているだけに会員の結びつきは強かつたと思います。皆さんから機会あるごとにご指導やご助言をいただき、同窓の温かい気持ちをとてもうれしく感じました。

また、夕陽会には平成二十年度から二十四年度まで財政部長として関わさせていただきました。その仕事を通じて財政部事務局の皆さんには、大切な会費を管理運用するため、日々、細かな業務に携わっていることを知りました。夕陽会はこのようにそれぞれの場で尽力されるいる会員の力によって支えられ、種々の事業が適切に推進されているのだと感じたものです。

今後は、教職に携わった一員として、また、同窓の一員として、微力ながら皆様のお役に立ちたいと考えております。誠にありがとうございました。

平成25年度

夕陽会函館市支部受賞祝賀会ならびに会員懇親会

平成26年2月21日(金)

於ロワジールホテル函館



壇上の受賞者の皆様



未来の夕陽を担う若人たち



力強いエール 鍛神小応援団



ご祝辞 副市長 中林重雄様



ご祝辞 次長 中島康則様



受賞者代表 近野功様



祝杯 教育長 山本真也様



寮歌先導 小林周次様



乾杯 夕陽会会长 橋田恭一様

学校・職場紹介

学校が誕生し、約千二百人の児童が各校に移籍しています。

函館市立日吉が丘小学校



本校は、西部地区から北部・東部地区への人口移動という住宅地拡大を受け、昭和三十九年四月に児童数四百七十六名の十四学級、湯川小学校に三つの分教室をおいて開校しました。その後も学級増は続き、ピーク時には千八百人以上の児童が通い、四十五学級ありました。

以後二十年の間に、校舎の増築や前庭の緑化などが行われ、プールも完成しました。この間も人口の増加は続き、近隣に深堀小学校や北日吉小学校、南本通小

会員紹介

教諭	校長
五十嵐	片山
本伸	桐本
桂良	由良
子（昭和五十二年卒）	子（昭和五十年卒）
子（昭和五十三年卒）	子（昭和五十七年卒）
子（昭和五十六年卒）	子（昭和五十九年卒）
子（昭和五十二年卒）	子（昭和五十二年卒）
子（昭和五十三年卒）	子（昭和五十三年卒）
子（昭和五十六年卒）	子（昭和五十六年卒）
里（昭和五十七年卒）	里（昭和五十七年卒）
砂（平成三年卒）	砂（平成三年卒）
樹（平成三年卒）	樹（平成三年卒）
樹（平成五年卒）	樹（平成五年卒）
子（平成六年卒）	子（平成六年卒）
美（平成七年卒）	美（平成七年卒）
之（平成七年卒）	之（平成七年卒）
晴（平成八年卒）	晴（平成八年卒）
俊（平成十一年卒）	俊（平成十一年卒）
克	千
榮	野
新	川
奥	村
古	上
中	島
三	瀬
笠	田
高	國
澤	川
三	山
杉	山
村	井
松	本
片	桐

成」のもと、重点教育目標である「笑顔で学ぶ 日吉つ子」の育成を目指し、確かな学力と豊かな心を育むため、家庭・地域と連携を図りながら、教職員一丸となつて取り組んでおります。

いたしました。また、G L A Y の歴史をたずねるファンの見学コースにもなつており、昨年夏には、玄関前で聖地巡りをするファンを数多く見かけました。

函館市立えさん小学校

十年前、活火山「恵山」がツツジの真紅に染まり、海なりが山々に轟く天恵の大地で、伝統と歴史を築き上げてきた小学校四校（恵山小、古武井小、尻岸内小日浦小）が統合し、旧尻岸内小学校の校舎からえさん小学校が生まれました。

四つの文化が一体となる中、本校の特色を地域と共につくり上げていくことを大切に、これまで様々な取組を進めてきました。たとえば、海までの距離が百M

「思いやり」を宝とする、本校のすばらしい子どもたちのために、今後も、教職員一丸となり、確かな学力を身に付けるため取り組んでいきます。

会員紹介

校長 藤田加治貴 明（昭和六十年卒）
教諭 藤中裕（平成四年卒）
丹治 恵（平成五年卒）

白い煙の息づかいい
波のゆりかご力モメたちよおやすみ
暗くなつても私が家に帰らないと
友達の家電話してくれる人

作曲 加藤一明
二 春 ウグイスの声にさそわれて
町中のツヅジが満開に
夏 磯の香りに包まれて
恵山の山はセミ時雨
こんな優しい
ぼくたちは一生懸命生きているから
背中の荷物が重すぎて歩けない時もある
だけど女那川の光るきれいな水をもち
太刀の海の疲れをまとう
昆布干し疲れていても真夜中に
ぼくの布団をなおしてくれる人
秋 夕日の後に待ちわびた
夜空にかかるやく星座たち
冬 雪に町の音が洗い込まれ
グラウンドには沢山の足跡が
こんな美しいここで育つても
涙で前が見えなくなることあるから

A black and white photograph showing the exterior of a temple building. The building has a light-colored facade with a dark roofline. A large arched window or entrance is visible on the left side. On the right side, there is a smaller arched opening. A decorative mural or relief is visible above the main entrance. The building is surrounded by trees, including a prominent pine tree on the left.

す。迅速に安全に子どもや高齢者を非難させるため、町内会をはじめ多くの方々の協力を得て、裏山に立派な避難経路を整備することができました。

◎訃報 ご冥福をお祈りいたします

1

葬	報	ご冥福をお祈りいたします
・北村	正男氏(昭20年卒)	平25年3月ご逝去
・利田	守久氏(昭13年卒)	3月ご逝去
・近嵐	作三氏(昭30年卒)	3月ご逝去
・佐賀	佳一氏(昭18年卒)	4月ご逝去
・森野	修氏(昭24年卒)	6月ご逝去
・大坂	公子氏(昭43年卒)	8月ご逝去
・新家千代子氏(昭24年卒)		10月ご逝去
・多田	敏夫氏(昭35年卒)	11月ご逝去
・秋山	修世氏(昭25年卒)	11月ご逝去
・河内	猛氏(昭28年卒)	12月ご逝去
・高橋	充宏氏(昭34年卒)	12月ご逝去
・八木	幸夫氏(昭26年卒)	平26年1月ご逝去
・遠藤	一郎氏(昭23年卒)	2月ご逝去
・笠原	正明氏(昭29年卒)	2月ご逝去

函館市支部前納會員

1

・・・・・
溝高今小木加阿
岸澤橋松村藤部
英幸福一正憲
二司ひとみ一保元男
氏氏氏氏氏氏氏

夕陽会函館市支部 会務報告

四

平成25年
4月
・総会会場予約

・ 新年度会員名簿作成
・ 事務局会議
・ 幹事校引継
・ 総会会場予約

- ・支部会報発行計画
- ・本部会報210号移送
- ・支部会報発行計画
- ・鶴陵会渡島支部懇親会に支
部長参加

・会計監査
・退職会員の前納会員移行案
内
20日(木)
・支部会報85号発行、本部会報212号移送

平成二十六年度 予告		9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26日(木)	・管理職採用・昇任者に寄付 ・事務局会議	26日(木)	・事務局会議 ・管理職採用・昇任者に寄付 ・集金	11月	・第2回本部役員会幹事長出席 ・祝賀会・会員懇親会運営計画 ・受賞者への祝意	9日(月)	・本部会報211号移送 ・祝賀会・会員懇親会案内状発送 ・受賞者、来賓、五稜支会、特別支援学校支会、会員)	18日(土)	・事務局会議 ・受賞祝賀会準備 ・顧問会議案内状発送 ・事務局会議 ・支部会報発行計画 ・支部顧問会議 ・夕陽会渡島支部勇退者激励 ・感謝の会に支部長参加 ・支部役員会 ・支部受賞祝賀会・会員懇親会 ・新年度会員名簿作成依頼 ・栄進者への祝意
29日(木)	・依頼								
		◆函館市支部総会	・会場 市民会館大会議室	・午前十時～	①学校幹事は必ず出席してください。 (都合の悪い場合は代理出席も可)	②学校幹事の他に次の会員数の出席をお願いいたします。	◆会員数九名以下の学校は、一名以上 ◆会員數十名以上の学校は、二名以上	◆会員數九名以下の学校は、一名以上 ◆会員數十名以上の学校は、二名以上	
				・日 時 四月十二日(土)	③初任者及び市外から転入された教職員の方は、ご紹介いたしますので必ずご参加ください。	の方は、ご紹介いたしますので必ずご参加ください。	の方は、ご紹介いたしますので必ずご参加ください。	の方は、ご紹介いたしますので必ずご参加ください。	
		◆事務局本部総会・大懇親会	・期 日 六月二十一日(土)	・会 場 函館国際ホテル	・本部総会 午後四時〇〇分～	・大懇親会 午後五時三十分～			
		事務局だより							

事務局だより

【平成二十六年度 予告】

○函館市支部総会

・日 時 四月十二日（土）午前十時～

・会 場 市民会館大会議室

①学校幹事は必ず出席してください。
(都合の悪い場合は代理出席也可)

②学校幹事の他に次の会員数の出席をお願いいたします。

◇会員数九名以下の学校は、一名以上
◇会員數十名以上の学校は、二名以上

③初任者及び市外から転入された教職員の方は、ご紹介いたしますので必ずご参加ください。

ロタ陽会本部総会・大懇親会

・期 日 六月二十一日（土）

・会 場 函館国際ホテル

・本部総会 午後四時〇〇分～

・大懇親会 午後五時三十分～

事務局だより

・支部会報第八十五号をお届けいたしました。本会報の発行に際し、ご多忙な時期にもかかわらず、快く原稿をお寄せいただき誠にありがとうございました。紙面をお借りして、心より感謝申し上げます。

(夕陽会函館市支部幹事長 高間猛)